

オミクロン株 XBB 系統流行後の透析患者における重症度と致死率について

公益社団法人 日本透析医会
 新型コロナウイルス感染対策ワーキンググループ
 委員長 菊地 勘

平素より新型コロナウイルス感染対策ワーキンググループの活動にご協力いただきありがとうございます。

令和 5 年 5 月 24 日時点の報告を最後に、透析患者における累積の新型コロナウイルス感染者の現況について、全国的な集計は終了させていただきました。しかし、5 月 25 日以降も、20 都府県の 61 施設の協力により、新型コロナウイルス感染症に関する情報提供をいただいております。

この度、オミクロン株 XBB 系統による第 9 波の真っ只中にあること、9 月 20 日より XBB.1.5 に対応した 1 価ワクチンの接種が開始されたことから、XBB 系統が流行後の透析患者における重症度と致死率について関心が高いと思います。このことから、協力施設の登録を基にして、5 月 25 日から 9 月 12 日までの、透析患者における重症化リスクや致死率を公表させていただきます。

まず、表に今回の協力施設の地域と施設数、感染者数を示します。

表 透析患者における新型コロナウイルス感染者数
 2023年5月25日から2023年9月12日時点まで(計 257人)

地域	都府県	施設数	感染者数
北海道・東北	1 県	1	8
関東	1 都6 県	36	146
甲信越・北陸	3 県	3	10
東海・近畿	2 府2 県	11	31
中国・四国	2 県	3	20
九州・沖縄	3 県	7	42
計	20	61	257

約 3.5 か月で 1 施設あたり平均 4.2 人の感染者が発生しています。第 7 波と第 8 波は約 3 か月で、約 6,000 人の感染者が発生していましたので、全国の透析施設数を考えると、第 9 波は第 7 波や第 8 波と同等かそれ以上の患者数が発生していると推察されます。

次に、図1に透析患者における新型コロナウイルス感染後の酸素飽和度を示します。

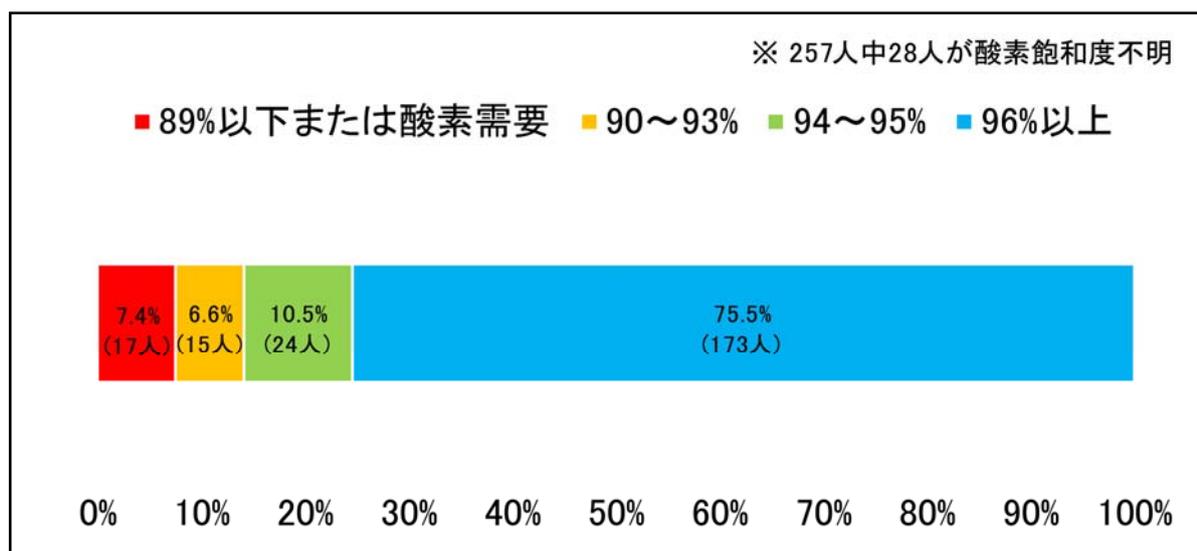


図1 透析患者における新型コロナウイルス感染後の酸素飽和度
2023年5月25日～2023年9月12日時点まで(計 229人)

軽症者は 75.5%、重症化リスクの高い酸素飽和度 94%未満や酸素需要のある患者は 14.0%であり、これまでの第 7 波や第 8 波の酸素飽和度の分布と変わりはありません。ただし、透析患者においては、XBB 系統でも重症度の高い患者が 14.0%も存在していることに注意が必要であり、感染予防やワクチン接種、感染後の抗ウイルス薬の投与が重要となります。

次に、図2に透析患者における新型コロナウイルス感染症の致死率を示します。

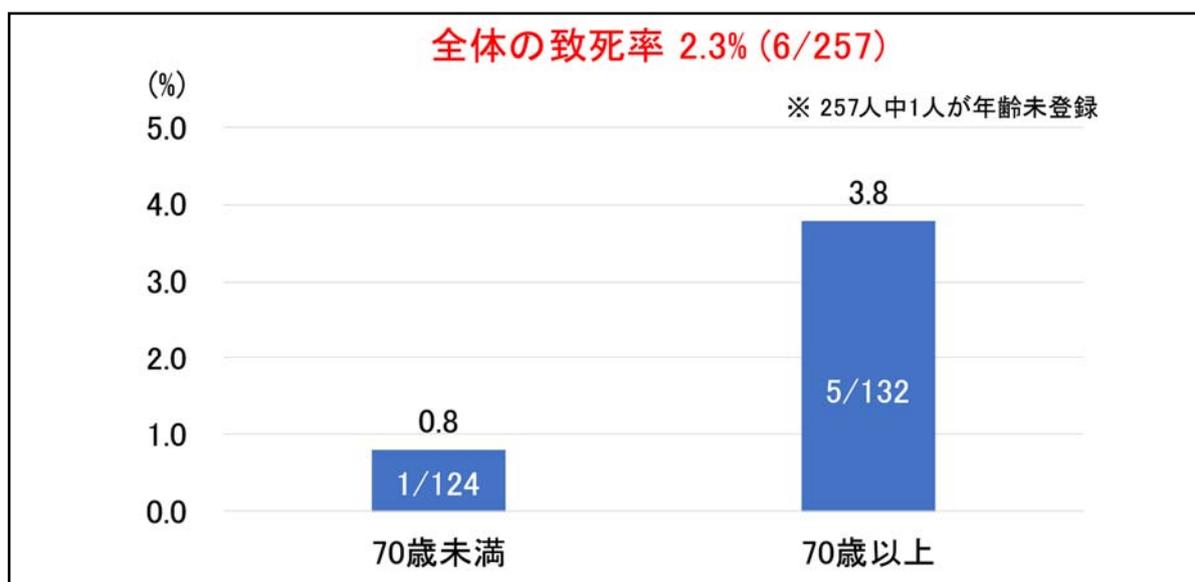


図2 透析患者における新型コロナウイルス感染症の致死率
2023年5月25日から2023年9月12日時点まで(計 256人)

主に BA. 5 による波であった第 7 波での致死率は 2.2%、主に BA. 5 および BA. 5 の変異系統による波であった第 8 波での致死率は 2.9%でしたので、第 7 波や第 8 波と同等の致死率です。そして、70 歳以上の致死率は 3.8%と高率で、70 歳未満の致死率は 0.8%と低いように感じられますが、第 7 波での一般人口の致死率は 0.1%未満ですので、透析患者の致死率は非常に高率です。

オミクロン株 XBB 系統となっても、透析患者における重症化リスクや致死率は、一般人口と比較して非常に高率です。令和 5 年 9 月 20 日より開始された、XBB.1.5 に対応した 1 価ワクチンの接種を速やかに実施すること、感染した場合には速やかな抗ウイルス薬の投与を行うことが重要となります。